

# 岐阜同朋 ふどうぼう

- 非戦・平和と真宗の教え (岩佐善夫) ● コラムしょうしんげ
- 今、子ども達をお寺に (岩越智俊)
- 岐阜のご旧跡「きぜの草庵」
- 教化紙と広報紙 そしてこれから (福島 覚)

# 114

2016.03



河野九門徒・河野圓城寺

笠松町円城寺

## 教化紙と広報紙 そしてこれから



岐阜教区前駐在教導  
福島 覚

2010.9.27 東京築地・本願寺別院

約8年間に亘り岐阜教区でお世話になり、「岐阜同朋」編集委員会、そして出版委員会の担当者として、委員の皆様と編集業務に携わってまいりました。どちらかと言うと、私自身、人前でお話することよりも、紙面に言葉を連ねて考え発信することの方が嫌いではない方で、毎回長時間に及ぶこの委員会の時間も、心地よく経過してきました。

出版委員会が開設される際に、「広報」という機能を担うことを前面に打ち出しました。教区の様々な情報を発信し、有縁の方々を知っていたく努力することも教化の一つであることとを心根にしてスタートしましたが、実際はその具体的な方策が浮かばず、船出は決して



2013.11.21 揖斐川町春日 (鏡ヶ岩屋)

出版委員会が開設される際に、「広報」という機能を模索し、御同朋との関係が構築されることが期されます。今後とも、出版を担う方々には敬意を表するとともに、意義のある紙面作りにご尽力いただくことをお願いし、御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

合掌



2014.4.27 岐阜教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要 (竹鼻別院)

順調ではありませんでした。ですから「岐阜の教如上人」という教区の特徴が活かされた冊子が発行された時は、喜びというよりもホッとすることを思い出します。

プロ野球の世界では、セ・リーグの球団は今年から全て40代の青年監督が就任するようですが、一方でお寺の業界は、それを取り巻く方々も含め、少々高齢化が進んでおります。このことは是非は種々ご意見があるかと思いますが、いわゆる旧態依然としたお寺さんの体質は厳然として存在しております。もちろん新しいことだけを尊重すること自体、多分に問題がありますが、ますますお寺と僧侶の存在意義が問われていく時代の中で、改めて仏教(真宗)教団としての機能を模索し、御同朋との関係が構築されることが期されます。

### 編集後記

昨年の10月29日から11月8日まで東京ビッグサイトを会場に東京モーターショウが開催された。1954年に第1回を開催してから60年以上の歴史を重ねてきて、ショーターマが、「きつとあなたのココロが走り出す」とのことである。確かに自動車の技術革新は、素晴らしい。電気自動車や燃料電池車に代表される車が公開された。深刻な大気汚染を減らすために、環境に配慮された車が誕生することは望ましいことであるが、何のために自動運転の車が必要なのか私には理解できない。ハンドルから手を放して、アクセルやブレーキを踏まない車は、確かに便利だが乗っても安全かもしれないが、あなたのココロが走り出すとは到底思えない。

現在の車にも、多数のコンピューターやセンサーが設置されているようで、それが自動運転ということになる。人間の意志や思考を全く無視したものになってしまうのではない。

人間の心がコンピューターに制御されていくと、他人への思いやりとか命の尊さを感じることができなくなるであろうか。最も危惧していることである。(田中)

# 非戦・平和と真宗の教え

本覚寺住職 岩佐善夫

戦後70年を迎えた2015年は、政府が戦後日本の体制を大きく変える「安全保障法制」を提起した年であり、戦争を体験した高齢者が、戦争を知らない若者が、子どもを守る母親が、真理を追究する学者が、生死を課題とする宗教者が、かつてないほど真剣に戦争と平和の問題を考え、行動に立ち上がった歴史的な年でした。

私も「郡上・九条の会」の一員として、親鸞聖人の教えを学ぶ宗教者の一人として、微力ながらもこの問題に取り組んできたところです。

そんな私に、「真宗の教えと非

戦・平和の課題はどのような関係にあるのか、思う所をまとめて下さい」との要望がありました。しかし、みなさんに「こうだ」と胸を張って話す内容を持ち合わせていません。どうしようと頭を抱えた次第ですが、断る勇気ありません。自心の整理程度の文を書いて勘弁願うこととしました。

「郡上・九条の会」は2004年、小泉内閣による自衛隊のイラク派遣の年につくられました。日本が再び戦争する国になるのではないか、憲法九条に象徴され

る平和主義が崩されるのではな

いかという危惧の念が高まり、とにかく憲法九条を守ろうと、多くの真宗大谷派寺院の御住職をはじめ、市内・120名余りの方が呼びかけ人に名を連ねて発足しました。以来、年1回の市民集会、隔月の学習会、折々での街頭宣伝などの活動を続けてきました。(九条の会は全国津々浦々につくられ、その数は7000を超え。)私は、発足当初から事務局員の一人として参加し、活動の企画・調整の仕事をして参りました。

さて、私は真宗の教えを学ぶ

者だから会の活動に参加したわけではありません。単に平和が壊されるのではないかという危機感、ある種の正義感に背中を押されて参加したにすぎません。しかし、10年ほどの年月を経て、「真宗の教えと非戦・平和の課題は深い関係にある」と思うようになったのです。

会の活動をする時、幾度となく突きつけられる問いがあります。「平和の為の戦争、平和を守るための武力は必要ではないか」という問いです。これは実に難

しい問題です。私

は、個人の手には負えるものではないと結論しています。

「それは無責任だ」とお叱りを受けるわけですが、この

問題は日本国内、いや世界中の人々の叡知を集めて解決される問題であると考えます。また、叡知を集めることに尽力することこそ、責任ある態度だと思っております。過去の戦争の深い反省から生まれた日本国憲法・前文の「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。」という言葉は、このことを表現したものだ

と思うのです。

さて、個々人の叡知が何によって真に叡知たるものになるか。それは真宗の教えに照らされて可能になると考えるのです。ここに教えと非戦・平和の課題との関係があります。

過日、新聞(朝日新聞と日刊ゲンダイ)に報じられた元予科練の加藤敦実さん(86歳)の話に強い衝撃を受け、多くのことを学びました。その一部を紹介します。

「私・加藤は予科練ではモリス信号を受信する訓練を受けました。九州の基地から出撃した特攻隊機が敵艦突入の際に発する信号音を聞き取っていたのです。周波数を合わせるピーという音が聞こえたのですが、ふっと消えた。しばらくして、またピーと鳴って、ふっと消える。その時に班長が「今は特攻隊機が突っ込んでいった時の音だ」と私に告げました。

—中略—パイロットが電鍵を押

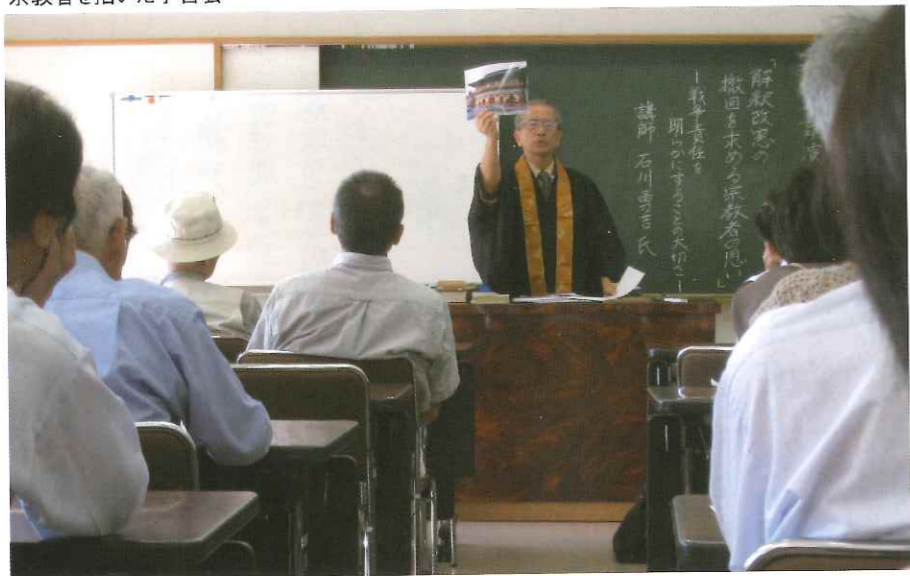
しつぱなしにしないと、電波は出ない。特攻隊員は死ぬ瞬間まで絆を断たれないようにしていた。それが「最期まで俺たちを見捨てるな」という魂の叫びに聞こえるようになりました。」

私は、この話から二つのことを学びました。

一つには、竹中彰元師が「戦争は罪悪である」と言われた、その意味。釈尊は縁起の法でいのちの姿を説いた。恒沙塵数の縁が私のいのちとなっている。その無数の縁は最期の最期まで「生きよ」と願って下さっている。電鍵を押しつぱなしにするパイロットの姿は、願われているいのちの尊い姿を鮮烈に教えてくれた。だから、そのいのちを勝手に奪ってしまう戦争は、徹頭徹尾「罪悪」ではないか、許されるものではない。師の言葉の重さが再認識されたことです。

今一つは、いのちの重さを量る身勝手な私たちの姿。仏法はいのちを無量、すなわち分別で量る(はかる)ことはできない、そ

宗教者を招いた学習会



コラム

しょうしんげ

本師曇鸞梁天子  
常向鸞処菩薩礼

【読み方】  
本師曇鸞は、梁の天子  
常に鸞の処に向こうて  
菩薩と礼したてまつる。

【意味】  
仏を篤く信じた中国の梁の国王  
は、いつも曇鸞のおられるところ  
に向かい、曇鸞を菩薩とあおぎ  
礼拝なさいました。

昨年10月25日の中日新聞の社説「甦れ  
サンダーバード」は興味深いものでした。  
今まで幾度となく再放送されているテレ  
ビ番組「サンダーバード」が、初放映から  
50周年を記念してCGアニメ化され、NH  
K総合で土曜日の夕方に放送されている  
とのことでした(新番組名サンダーバード  
ARE GO!)。



早速先日テレビのスイッチをいれて見  
てみると、私たちが見た不朽の名作であっ  
た人形劇のものは違い、映像は斬新に

れほどの尊い存在だと教えられ  
た。ブッタの誕生偈「天上天下  
唯我独尊」も、誰のいのちも独  
り限りなく尊いとの宣言です。  
ところがいのちを犠牲にする特  
攻は「お国のため」という言葉に  
よって正当化された。いのちが  
「お国」と天秤にかけられ、無残  
にも奪われていった。いのちの重  
さを分別で量ることがどれだけ  
愚かで危険なことかが教えられ  
ることです。

加藤敦実さんの新聞投稿は、  
さらに続きます。

「私・加藤は」安全保障関連  
法案が衆院を通過し、耐えられ  
ない思いでいる。だが、学生さん  
たちが反対のデモを始めたと思っ  
た時、特攻隊を指す元予科練  
だった私は、うれしくて涙を流し  
た。体の芯から燃える熱で、涙が  
湯になるようだった。オーイ、特  
攻で死んでいった先輩、同僚たち。  
『今こそ俺たちは生き返ったぞ』  
とむせび泣きしながら叫んだ。

—中略—死ねと命じられて爆弾  
もろとも敵艦に突っ込んでいった  
特攻隊員たち。人生には心から  
笑いがあり、友情と恋があふれ咲  
いていることすら知らず、五体爆  
裂し肉片となって恨み死にした。  
16才、18才、20才…。若かった  
我々が、生まれ変わってデモ隊と  
なつて立ち並んでいるように感じ  
た。学生さんたちに心から感謝  
する。今のあなた方のようにこそ、  
我々は生きていたかったのだ。」

この投稿を読んだ学生は「朝  
からボロ泣きした。」とネットで  
つぶやき、各地の集会で投稿を  
朗読したと報道されています。

私はこの話からも強い感動を  
受け、念仏者の姿とはどういう  
ことかを学びました。

親鸞聖人の和讃に「南無阿彌  
陀仏をとなうれば 十方無量  
の諸仏は 百重千重圍繞して  
よろこびまもりたまうなり」と  
いう一首がある。私には、この和  
讃の心は加藤さんとデモに参加  
する学生の心だと聞こえてくる  
のです。「諸仏」は「特攻で死んで

いった先輩、同僚たち」、その諸仏  
が戦争の惨禍を今に伝えている。  
平和の意味を教える諸仏となつ  
て今を生きる者を護っている。そ  
の声を聞いた今を生きる者が  
「ボロ泣き」して諸仏と讃え、そ  
の声に応えようと懸命になつてい  
る。これは「前に生まれん者は後  
を導き、後に生まれん者は前を  
訪え」(「安樂集」)との教えその  
ものではありませんか。また、  
「仏相念」(「無量寿経」)の世  
界、「拜む私が拜まれてる」世  
界だと思ふのです。この姿こそ、  
浄土往生を願う念仏者の姿では  
ないでしょうか。

「中日新聞」2014年11月17  
日コラムに三浦綾子さん(『氷点』  
等の作家、キリスト者)の言葉が  
紹介されていた。

「作家の三浦綾子さんは、学徒  
出陣で戦死した学生達の手記  
『きけわだつみのこえ』を読んで、  
「この世には読み終えたというこ  
とのできない本がある」と知った  
そうだ。読んだ者の責任を問い  
続ける本があるのだと。」

加藤敦実さん、三浦綾子さん  
の話から、浄土の諸仏から呼び  
声を聞くのが聞法、その声に応  
え、聞いた者の責任を生きるの  
が念仏者の道であると学んだ  
ことです。

以上、繰り返しとなりますが、  
真宗の教えに照らされてこそ非  
戦・平和の課題が明らかになり、  
同時にその課題に答えることが、  
真宗の教えを学ぶ者、念仏の道  
を求める者の責務であると考え  
ているのです。

聖人は「唯信鈔文意」等の文  
末に「おなじことを、たびたびと  
りかえしとりかえし、かきつけ  
たり。こころあらんひとは、おか  
しくおもうべし。あざけりをな  
すべし。」と書いておられます。  
拙文を結ぶにあたり、聖人とは  
違った次元で、同じ言葉を最後  
に書きたい心境であり、自らの  
非力を恥じる所です。

リニューアルされ、懐かしい思いとともに  
衰えないこの作品の素晴らしさに改めて  
感心したことでした。  
時代設定は2060年、トレーシー一家  
5兄弟による「国際救助隊」の活躍が描か  
れており、その魅力は、非軍事で、いかな  
る国家にも属さず、支援も受けない、あら  
ゆる難事も分け隔てなく地球を守る、人  
命救助を最優先する究極の国際貢献と記  
事は伝えます。

国との関係、世界的に広がりをもせるテ  
ロ、集団的自衛権の問題等を政治だけの  
問題としないことが願われます。日本国  
憲法の前文には「全世界の国民が、ひと  
く恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生  
存する権利を有することを確認する」と  
あり、まさに法蔵菩薩の願いが思い起こ  
されます。政治家だけでなく、私たち念仏  
の教えをいただく者は、何を宗(生きる根  
本)として生きるのか、利益最優先の駆け  
引きなのか、共に生きる、共に喜びあえる  
平等の大地(浄土)に立つことができるの  
かが深く問われていると思います。

親鸞聖人が「正信偈」曇鸞章の冒頭に  
この一句をうたわれた重みを感じます。  
「高僧和讃」ではこの内容が曇鸞章34首  
の結びのご和讃となる。(聖p494)

まつりごとを行う者が何を根本にして  
生きるのか、後鳥羽上皇が吉水の念仏教  
団に行った弾圧をも彷彿させるものです。  
そこには、善悪を超えて人間として生き  
ることの悲しさや痛ましさが見え隠れし  
ます。親鸞聖人が曇鸞大師の何に最も頌  
かれたのか、もう一度いただきなおしてい  
きたいと思うのです。

勢調査の結果です。全国30教区  
の上位5教区の結果を掲載して  
います。日曜学校の有無と正信  
偈が読めることでは、東海地方は  
全国屈指で、実は岐阜教区は全

子ども会(日曜学校)の有無

年	1992年	2000年	2012年
長 浜	1 64.3	1 60.2	1 50.1
長 崎	3 51.0	4 34.7	2 40.8
大 垣	2 53.3	2 38.4	3 33.5
高 山	4 40.0	3 35.5	4 33.3
岐 阜	5 34.3	5 26.5	5 27.0

「正信偈のお勤め」ができる門徒が半分以上

年	1992年	2000年	2012年
長 浜	1 98.2	1 98.4	1 98.2
大 垣	2 96.0	2 95.9	2 95.0
高 山	3 91.2	3 92.4	3 91.4
三 重	4 87.1	4 88.4	4 87.5
岐 阜	5 85.2	5 84.9	5 84.9



てにおいて5番目  
の教区です。こ  
の調査から、子ど  
も会(日曜学校)  
が行われている割  
合が高い教区は、  
「正信偈のお勤め」  
ができる門徒の割  
合が同様に高い、



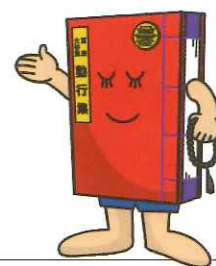
ということが分かります。  
岐阜の地で続いてきた行事や  
習慣は決して無意味だった訳で  
なく、「正信偈が読める門徒が多  
い」という形で、私たちの身に備  
わってきたことが分かります。

お寺の都合で、平日の夕方でも  
土日でも、いつでも良いと思いま  
す。掲示板に告知し、チラシを配  
り、できれば町内回覧などしても



らって、本堂の戸を開けて、待つ。  
お寺がすべきことはこれだけです。  
特に面白いことができなくて  
も、お菓子くらい渡せば充分で  
す。「子ども向けの法話ができな  
いから」「紙芝居やゲームは苦  
手だから」と、開催の二の足を  
踏むくらいなら、お勤めだけやっ  
て終わればいいと私は思います。  
そして、「参加人数のことは考  
えない」というのが私なりの結論  
です。誰も来なかつたら、一人でお  
夕事をお勤めして終われば良い  
と思います。それでも誰も困り  
ません。お寺に子どもが来るか  
どうかは、仏さまのお仕事。私が  
「来い」と言ったって、私の魅力で  
人が来るわけではありません。

# 今、子ども達を お寺に



## 人生に寄り添って

平成11年から、うちのお寺では  
帰敬式きけいしきを続けています。帰敬式  
に先立っての講習会で、受式予定  
者に次のような質問をしました。

「今からお釈迦さまの話をしま  
す。そうです、甘茶かけです。よ  
く聞いてくださいね。誰も会ったこと  
がないお釈迦さま、どこで誰から  
教えてもらったか覚えてますか?」

昭和12年生の男性:「茜部の専慶あかねくさ  
寺の日曜学校で、だるうな」

昭和22年生の女性:「子どもの  
頃、鶏の深広寺うすひろでだったと思  
う。最近、孫の通ってる笠松  
保育園で、この年になって改  
めて教えてもらっている」

昭和11年生の男性:「生まれ育っ  
た信州は廃仏毀釈はいぶつきやくで近くの  
家はみんな神道しんどうだった。ここ  
らに養子に来て、尾張北方の  
地域のお講組で仏教のこと  
は一から教えてもらった」  
昭和15年生の男性:「揖斐大野  
では、小学校の行事の中に花  
まつりがあった」

昭和48年生の女性:「多分テレ  
ビですね」

「ここで、うちのお寺で教えても  
らった人は一人もいない、という  
のが面白いところです。あらゆる  
人の縁で、人間は形成されていき  
ます。」帰敬式を受けてみては...」  
と誘ったのは私ですが、受ける気  
になつた出発点は、子どもの頃か  
らの原体験にあるのです。

「テレビで知った」という答えも  
新鮮でした。堺正章さんの『西遊  
記』や『レインボーマン』、『まんが  
日本昔ばなし』など、そこかしこ  
に仏教の説話が顔を出すテレビ  
番組が、当時、確かにありました。

※法名を貰って仏弟子になる儀式。  
「おかみそじ」とも言います。

## 現代の子ども事情

翻ひるがえって、現代の子ども達を取り  
巻く環境はどのようでしょう?

生後60日子どもを預け、働  
き始めるお母さんがいます。今  
や2歳にして、iPadやスマホ  
で遊ばせている「家庭がありま  
す。学ばせたいと思ったら、幼少

最後にもう一つ、ご家族亡きあ  
との中陰ちゆういんのお参りがやはり大切  
ではないでしょうか。私は、若い  
人のお参りできる機会になるよ  
う、時間や曜日の調整を心がける  
ことにしています。

## お寺がすべきこと

子どもさん対象のお勤めの稽  
古を、一年の中でどんな形であれ  
開催することだと思います。

世間の方を対象に、お勤めの稽  
古をして良い場所は、お寺しかあ  
りません。そして、私たち寺に住  
む者は、真宗大谷派の僧侶です。  
お内仏にお参りする機会がな  
い子にとって、お寺でお勤めをす  
る経験はとても貴重です。

「とりあえず始めてしまつこと  
でしよう」と高山教区たかみやまの四衛亮しゑいりやうさ  
んは言われました。別の先輩は、  
「四の五の言わずに、やる」と宣言  
されました。

お寺の都合で、平日の夕方でも  
土日でも、いつでも良いと思いま  
す。掲示板に告知し、チラシを配  
り、できれば町内回覧などしても

期からあらゆる習い事が用意さ  
れています。

親も、子ども、全くもって自由に生  
き方を選べる時代になりました。  
しかし、言い換えれば、興味の  
ないことや一見役に立たなさそう  
なことは知らないまま過ぎてし  
まつのが、現代の子育て事情と言  
えるのではないのでしょうか?

生きていく中で避けることで  
きない大切なことを、地域や社会  
で伝える機会を持つことが、いま  
さに求められています。

## 私たち一人ひとりに できること

まず、今に続いている習慣を見  
返してみることにします。

仏教保育の園行事、地域で行わ  
れている地藏盆、夏のラジオ体操  
の後のお勤めの稽古、除夜の鐘...

自分用の、  
子ども用の  
数珠じゆずを持た  
せてもらう機  
縁えんになつてい  
るはずですよ。



私にとって  
児童教化とは…

私にとって児童教化とは、大切  
と思うことを、自分の言葉で話を  
することのできる場です。子ども  
会では、仏教のこと、正しい振る  
舞いのこと、友だちへの態度など、  
ひとまず自分は全部知っているも  
りて話を進めます。自信のあるこ  
ともないことも、眼を見て大きな  
声で話をします。子どもは眼を  
キラキラさせて見てくれたり、懐  
疑的な表情だったり様々に反応が

あります。こちらの思いを見透か  
されて、トキッとすることもあり  
ます。実際、子どもに教えようと  
することで、自分自身が教えられ  
ることは、とても多いです。

おかしなことを言ったり、間違っ  
たりしてもいいじゃないですか。  
子どもたちは、正しさも、間違い  
も、ちゃんと人生経験の糧にして  
くれるはずですよ。仏前であること  
さえ意識していれば、私も子ども  
たちも、必ず「仏のごども」として  
学び合う仲間になれるはずですよ。  
(笠松町・福證寺住職 岩越智俊)



写真は全て「福證寺子ども会」のスナップ



岐阜のご旧跡  
「きざの草庵」

文責・出版委員会

河野園城寺「親鸞聖人お手植えの木」=笠松町円城寺



親鸞聖人が、関東から京都へ  
の帰途、三河の柳堂で教化され  
た時、尾濃の河野四郎通勝(道  
勝)ら九名が教えを受けて帰依  
し、1235(嘉禎元)年河野の地、  
きざに草庵を結び聖人を招き、  
教えを受けたとされています。  
親鸞聖人は、この九名にそれぞ  
れ直筆の名号を授与され、その  
子孫が聞法の道場を開いていつ  
たのが「河野九門徒」と呼ばれ  
る寺々です。

この濃尾地方に、浄土真宗の  
教えが広まる発祥の地がこのき  
ざの草庵といえます。

きざの草庵を現代に伝えてい  
るのが、まず岐阜羽島市にあ  
る竹鼻別院です。この草庵は大  
洪水で流失してしまいました。が、  
1470(文明2)年蓮如上人がこ  
の地を訪れた際に再興し、「河野  
御坊(木瀬御坊)」と呼ばれました。  
その後移転を繰り返して、教如上  
人の時代には、竹鼻  
町下町に移転され  
(1604年)、後に御  
坊に認められ、現在  
の場所に転移され  
きたのは、1760年  
と言われています。



きざの草庵跡の顕彰看板=笠松町中野

また、羽島郡笠松町中野にも  
「きざの草庵」を今に伝える地  
があり、その場所に顕彰看板が  
あります。  
この場所は、「喜瀬の宮」とい  
う神社があった地でもあり、喜  
瀬神社跡の石碑も近くにありま  
す(現在は近隣の綾衾神社に合祀され  
ています)。1266(文永  
3)年に、喜瀬の総庵(草  
庵)が広野川の大洪水に  
より流されてしまったの  
で、その跡に喜瀬の宮が  
建てられたと、きざ  
の草庵の守り神様を祀つ

たものという  
話が伝えら  
れています。  
この土地か  
らは、土器片、  
碗、瓶、皿、五  
輪塔、加工さ  
れた石などが  
発見されています。「かさまち」  
(羽島郡笠松町文化審議会、羽島郡笠松  
町考古歴史を語る会、発行)によると、  
「これらのものは、平安時代のも  
のや、鎌倉時代のもので、洪水に  
よってうまったものと考えられて  
いる。遺跡の様子から、平安末期



きざの草庵跡からの出土品(河野称名寺・蔵)

子ども会に最適アイテム!!

(青少年教化教材)



- 1 肩衣
- 2 鸞恩くんクリアファイル
- 3 子どもノート
- 4 あかほんくん勤行集
- 5 かわり玉念珠(大)(小)
- 6 キャラクター鉛筆
- 7 あかほんくん消しゴム
- 8 キャラクター定規
- 9 キャラクターストラップ
- 10 キャラクター下敷き
- 11 ゲーム集
- 12 ○△□念珠(5色)
- 13 どくろ念珠(一連・二連)

価格など、詳細は教務所にお問い合わせ下さい。

から鎌倉前期にかけて栄えたが、いったん壊滅し、後に再建されたことが想像される」とあります。



河野称名寺本堂

『真宗新辞典』(法蔵館)には、きぜの草庵について、「尾張国河野村木瀬郷に一字の草庵(現・称名寺)を結んだと伝え」とあります。河野九門徒のひとつである河野称名寺は、現在はその場所から移転し、南西へ200メートルほどの地にあります。境内には、きぜの草庵を顕彰する石碑(文政年間)や先述の場所から発見された土器片や碗などの出土品も所蔵されています。称名寺は743(延暦2)年伝教大師最澄の創建と伝えられ、初めは天台

宗の寺院でしたが、善海坊が親鸞に帰依し浄土真宗に改宗し、それまでの圓融寺を称名寺と改めました。その後衰微しましたが、第七代善法が蓮如上人の直弟となり再興しました。

また河野称名寺からさらに南西へ500メートルほどの地に、同じく河野九門徒のひとつ河野圓城寺があります。河野圓城寺の境内には、親鸞聖人お手植えの木と伝えられるかやの木があります(9ページ見出し写真)。河野圓城寺は、飛鳥時代、聖徳太子により河野に創建され、最初



河野圓城寺本堂

は法華宗、後に天台宗、その後最勝が親鸞に帰依し、浄土真宗に改宗しました。当時は西正坊、後に西徳寺、そして圓城寺となりました。

各務原市にある河野九門徒の寺院である河野西入坊は、「蓮如さま」という愛称で親しまれています。蓮如上人がこの地を訪れた頃は、お寺は衰微していたといわれ、第七代行念(巧念)が蓮如上人に願ひ出て、河野の道場の再興を果たしたと言われています。同寺に伝わる蓮如上人から下付された御寿影は各務原市の有形文化財に指定されています。また境内にあるイチヨウの木は樹齢500年を超すと云われ、各務原市の天然記念物に指定されています。



河野西入坊 各務原市天然記念物いちよう=各務原市

以上は、河野九門徒の大谷派の寺院で、いずれも岐阜教区第3組に所属する寺院です。この他にも、愛知県一宮市(名古屋教区)に河野妙性坊、河野善龍寺、河野榮泉寺があり、先述の河野称名寺、河野圓城寺、河野西入坊と合わせて、河野六坊と呼ばれ、現在でもつながりをもっています。



河野西入坊本堂

河野九門徒には、本願寺派の寺院もあります。岐南町にある河野専光寺、各務原市にある河野安楽寺の2つです。河野専光寺は1235(嘉禎元)年、円信の創建と伝えられています。河野安楽寺は、もとは天台宗の住職であった一道阿舍利が浄土真宗に改宗し法名を円人と改めました。本願寺派が顕彰する「河野御



本願寺派が顕彰する「河野御坊跡」=岐南町三宅

坊跡」の旧跡が岐南町三宅にあります。その南、笠松町中野と隣接する岐南町伏屋地区には「新草庵」(仏供田)という地名も見られます。この近辺からも五輪塔などの出土品があり、隣の憶念寺に保管されています。笠松町中野にも、区画整理前は、きぜ(喜瀬)という地名があり、この中野村の喜瀬から、伏屋村の木瀬、三宅村の氣瀬(木瀬)にかけて南北に2キロ弱ほど連なっている地域が「きぜ八町」と呼ばれていたようです。

この地域を中心として、数多くの間法道場(河野道場)が開かれました。河野道場はこの地だけにどまらず、美濃地方一帯に広がっていきました。親鸞聖人の教えがこの地を中心に、広く伝わっていったのです。

江戸時代、1685(貞享2)年に俳人松尾芭蕉もこの「きぜの草庵」を訪れました。河野称名寺の境内には、芭蕉がその時詠んだ句「永き日を轉りたらぬ雲雀かな」の句碑が建っています。



河野称名寺「きぜの草庵の碑(左)と芭蕉句碑(右)」=笠松町円城寺

笠松町中野のきぜの草庵の顕彰看板の最後には、「かくして河野道場は法灯輝き、隣接の河野九門徒称名寺、圓城寺、及び専福寺などと共に遠近から参詣する善男善女で賑わい、門前市が開かれたと伝う」と結んであります。



親鸞聖人を迎えて以来、約800年、蓮如上人が訪れてから約500年の月日が流れています。洪水が多い地域により、流失したりして衰微したときもあったようですが、その長い年月の間、法灯を絶やさずに伝えてこられた先人たちの歩みに思いをよせ、あらためて私たちが親鸞聖人の開かれた念仏の教えに間法していきたいものです。

※「きぜの草庵」は「木瀬」とも「喜瀬」とも文献には書かれています。

【参考文献】

- 笠松町史
「かさまち」(羽島郡笠松町文化審議会 羽島郡笠松町考古歴史を語る会)
『真宗新辞典』(法蔵館)
『下羽栗昔物語』(宮崎すき)
『美濃季候誌』(岐阜県測候所)
『木曾川町史』
『一宮市史』
『羽島市史』
『岐阜県史』
『河野門徒の基礎的研究』(青木忠夫)
『大谷派遺跡録』
『芭蕉と木瀬草庵』(高橋清徳)